

気象条件から見る 2025 年春の花粉予測
(令和 7 年 1 月 22 日東京都花粉症対策検討委員会資料)

気象予報士 村山貢司

1、令和 6 年（2024 年）夏の気象

スギやヒノキの花粉飛散量に最も影響するのは前年 6 月から 7 月の気象、特に 6 月の日照時間になる。表―1 に示すように千代田区の花粉数と東京の月別の日照時間の相関係数は 6 月が最も高く、相関係数はスギ・ヒノキ総数が 0.8、スギ単独で 0.6、ヒノキ単独でも 0.56 となっている。

表―1 月別日照時間と花粉数の相関

日照時間	東京 総数	横浜 総数	東京 スギ	同 ヒノキ
5月	0.17	-	-	0.24
6月	0.8	0.59	0.6	0.56
7月	0.44	0.35	0.13	0.37
8月	-	0.16	0.27	-
9月	-	0.29	0.38	-

令和 6 年（2024 年）6 月の日照時間は令和 5 年より 20.6 時間多く、平年との比較では 36.7 時間多くなっていた。関東では全域で平年の 120%を超えている。7 月の日照時間は 130.8 時間と令和 5 年（2023 年）より大幅に減少したが、平年との比較では 26.8 時間の減少であった。7 月の旬別の日照時間は上旬が前年より 14.3 時間、平年との比較で 31.9 時間多くなっており 7 月中旬以降の日照時間がどの程度影響するかが問題になる。

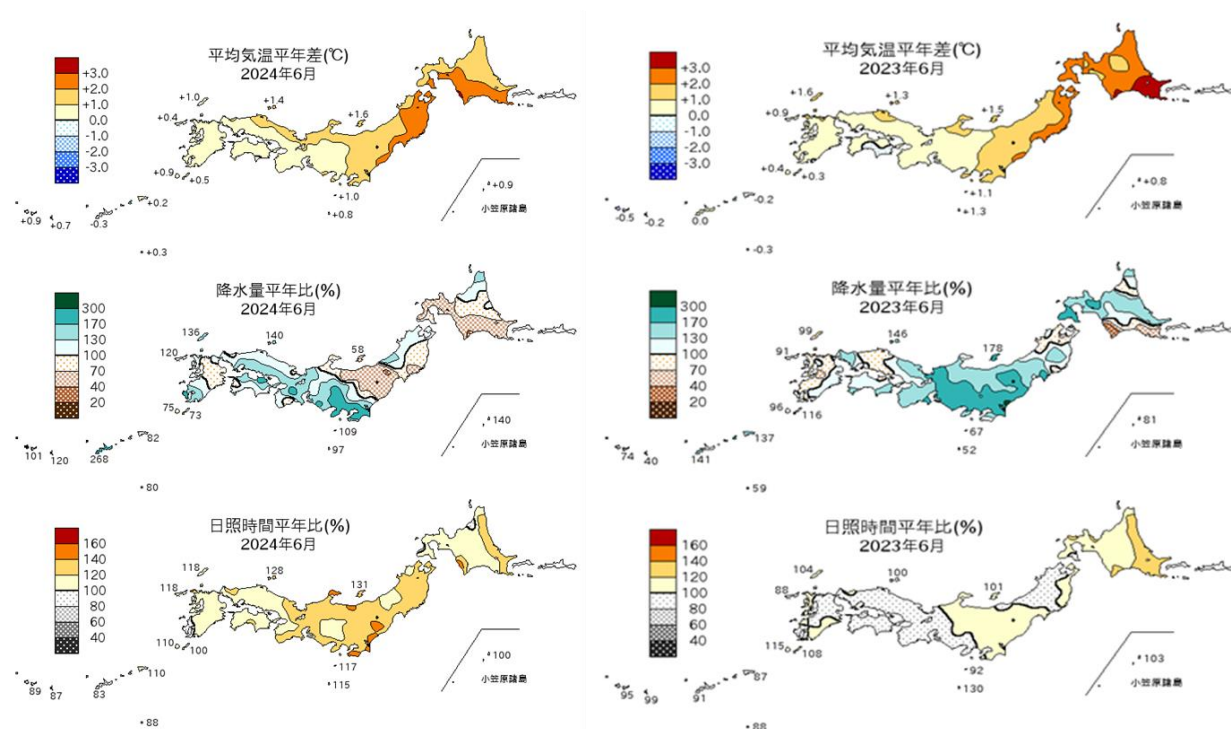
6 月から 7 月の日照時間の合計は令和 6 年は前年に比べかなり少なくなっているが、平年との比較ではおよそ 10 時間多くなっている。気象条件からは都内のスギ・ヒノキの花粉数は平年並みになると推定される（表―2、図―1、図―2）。

表―2 令和 6 年（2024 年）6 月から 7 月の旬毎の日照時間（気象庁HPより引用）

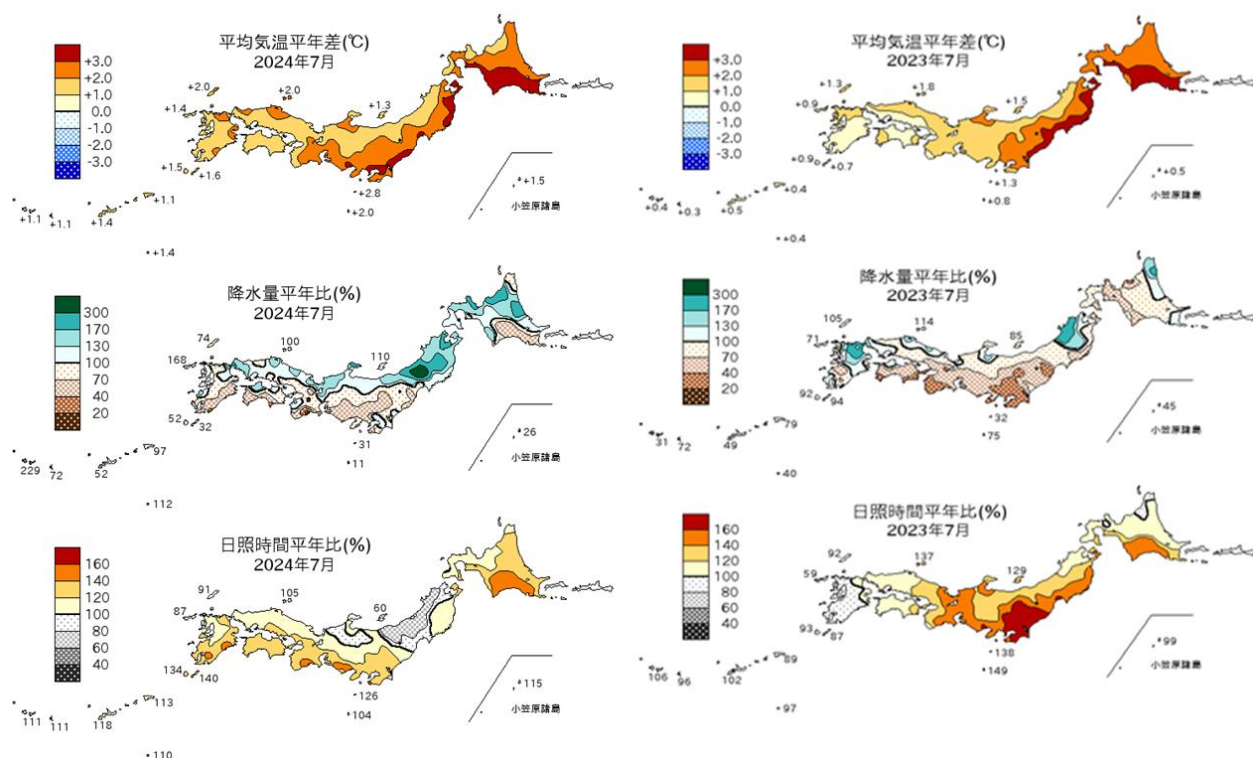
日照時間	令和 5 年 (2023年)	令和 6 年 (2024年)	平年値	前年差	平年差
6 月上旬	46.3	53.6	55.3	7.3	-1.7
6 月中旬	48.6	76.4	41.3	27.8	35.1
6 月下旬	42.6	28.1	29.2	-14.5	-1.1
7 月上旬	56.9	71.2	39.3	14.3	31.9
7 月中旬	70.4	33.6	44.2	-36.8	-10.6
7 月下旬	123.1	94.8	63	-28.3	31.8
6 月合計	137.5	158.1	121.4	20.6	36.7
7 月合計	250.4	119.6	146.4	-130.8	-26.8

(時間)

文章・画像等の内容の無断転載及び複製等の行為はご遠慮ください。



図－1 令和6年（2024年）と令和5年（2023年）6月の気象（気象庁HPより引用）



図－2 令和6年（2024年）と令和5年（2023年）7月の気象（気象庁HPより引用）

2、令和7年（2025年）の各地の花粉予測

都内の花粉の飛散量の予測は、気象条件に関東南部のスギ雄花の調査結果を入れた重回帰式によって計算している。東京への花粉の影響度は神奈川県が最も大きく、次いで東京と埼玉になる。

関東南部において令和6年（2024年）の11月から12月に観測されたスギ雄花調査の結果を表－3に示す。令和6年秋から初冬に観測された関東南部のスギ雄花の量は令和5年（2023年）に比較して東京でかなり少なく、埼玉はほぼ前年並みであった。東京だけが前年より38%少なく、過去10年の平均値より29%少なくなっているが、他は過去10年の平均値より多く、東京に最も影響する神奈川県では前年より59%多く、平均値より44%多くなっている。

雄花数の予測には東京と神奈川の平均を用いており、令和6年の平均値は前年および過去10年の平均値よりおよそ1100個多くなっている。千葉県と関東北部の影響は小さいので、スギ雄花の調査結果からは都内の令和7年（2025年）春の花粉数は前年及び例年とほぼ同じかやや多くなる見込みである（表－4）。

表－3 令和6年（2024年）スギ雄花調査結果（環境省報道発表資料より作成）

	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	過去10年 平均値	前年比 (%)	過去10年 平均比 (%)	前年差	過去10年 平均差
埼玉	6,478	6,308	5,887	97	107	-170	421
千葉	5,572	9,903	5,643	178	176	4,331	4,260
東京	6,383	3,985	5,589	62	71	-2,398	-1,604
神奈川	7,793	12,357	8,568	159	144	4,564	3,789
東京・神奈川	7,088	8,171	7,079	115	115	1,083	1,092

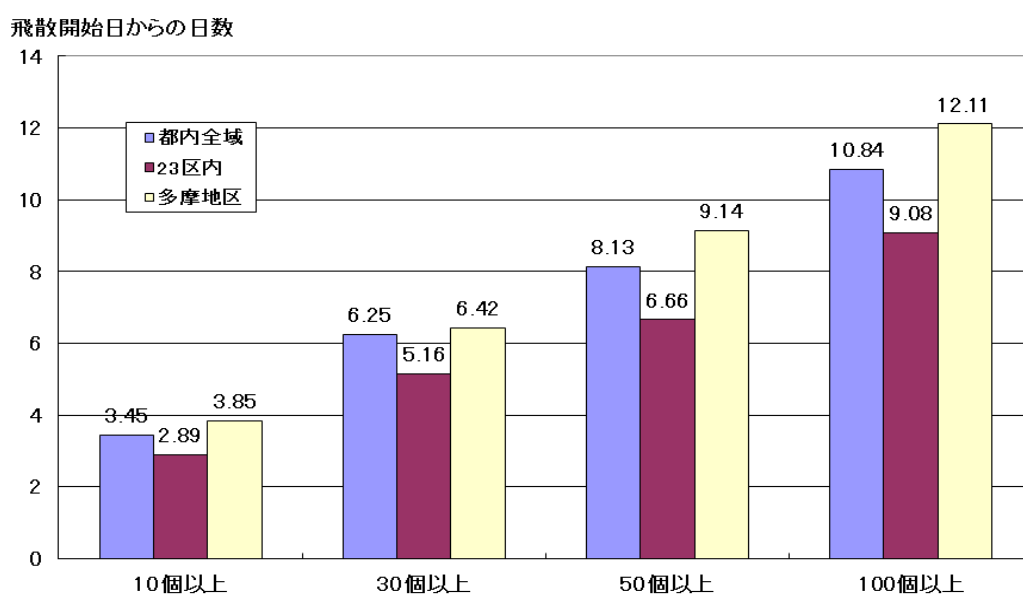
(個/㎡)

表－4 令和7年（2025年）都内花粉予測

	令和6年（2024年） 実測（個/㎠）	令和7年（2025年） 予測（個/㎠）	過去10年平均 （個/㎠）	前年比 （%）	平均比 （%）	30 個/㎠以上 の日の予測 （日）
千代田	5,723	5,817	5,329	102	109	36
葛飾	5,238	5,557	5,345	106	104	35
杉並	7,476	7,358	6,622	98	111	44
北	5,228	5,604	5,420	107	103	35
大田	5,269	5,588	5,397	106	104	35
青梅	15,764	14,990	11,294	95	133	79
八王子	6,951	8,205	6,876	118	119	48
多摩	7,767	7,695	5,631	99	137	45
町田	4,352	4,909	3,863	113	127	32
立川	10,115	9,546	5,579	94	171	54
府中	6,472	5,622	3,934	87	143	35
小平	3,692	3,653	2,787	99	131	26
都平均	7,004	7,045	5,673	101	124	42

多くの花粉症患者が中等症以上になる1日あたり30個以上になる日は23区で35日から44日、多摩地区では青梅が79日で非常に多く、小平は26日と比較的少ないがその他は32日から54日と予想される。

なお、花粉数の増加によって飛散開始から短期間で花粉数が増加するようになっており、過去10年の平均では、図3に示すように飛散開始から花粉数が10個以上になるまでの日数は3日から4日、30個以上になるまでの日数は6日前後になっている。多摩地区に比べると23区内の方がおよそ1日早くなっている。花粉情報でやや多いランクになるのに約4日、多いランクになるのに約1週間と近年は非常に早いことを都民に理解してもらう必要がある。



図一 3 飛散開始日から各ランクまでの日数